

2. 東北（地域別調査機関：（財）東北開発研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	コンビニ（経営者）	・近隣の客の動向から、キャンペーンやイベントがあると来客数が増える。2月でキャンペーンは終了するが、3月から新たにATMの導入があり、競合他店との差別化が図られプラス要因となる。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	・例年に比べ1、2月は品物が非常に動かなかった。今後雪が解け、暖かくなれば、悪過ぎた分が加算されて人も品物も動く。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・消費意欲の上昇傾向がみられる。これは、今しばらく続く。自信喪失気味であった商店街でも店舗改装など積極性が出てきている。
		商店街（代表者）	・商店街の中の大型店が改装を進めていること、また、中小の店も新たに新店出されることの効果が徐々に期待される。
		一般小売店〔書籍〕（経営者）	・春の需要期に入るので、店頭が活気づく。冬の出不精が一気にやわらぎ、今年は特に客足の伸びが期待される。
		一般小売店〔カメラ〕（店長）	・卒業、入学などがあり、3月から新製品の発売も予定されているので、期待できる。
		百貨店（企画担当）	・昨年前半に比べると景気のレベルは上がっている。ただ、一進一退で天候等小さいことに影響される体的問題がある。春先からのモチベーション需要、春物衣料の動きも含めて、ヒト、モノ、カネが動く春先にどのような消費行動となるかについては大いに注目される。
		百貨店（広報担当）	・セール品ではない春物の商品が順調に動きだしている。また特選ブランド以外の高額品も堅調に推移している。わずかずつではあるが消費の回復感の手堅さがある。
		百貨店（売場担当）	・今年流行のマリン風の洋服や当社オリジナルのかばんなどかなり早くから動きがみられ、全体的に景気は良くなっている。2月に入り、ボーナス払いの客もあり、昨年に比べカード決済している客も増えている。2、3か月後もこの調子でいけば全体的に良くなる。
		スーパー（経営者）	・冬期間のため新潟県中越地震復興工事が土木中心に停止状態であったが、再開されることにより、労働力の流入などで食品消費が回復する。
		コンビニ（エリア担当）	・県内の有効求人倍率や今春高校卒業者の就職率など改善の兆しはある。例年のない降雪の反動と、暖かい日が続くことで売上が改善される。しかし、全体の景気が決して良いというわけではない。
		家電量販店（従業員）	・新社会人、新入学向け商品の売上の伸びが期待される。また、当地域において民放の地上デジタルの試験放送が開始され、関連商品の売上が伸びる。
		乗用車販売店（経営者）	・雪解けが進み春の訪れを感じるとともに、8～10年と長期間乗っていた客の台替えが進む。新型の小型車が期待される。景気が良くなっているという情報とあいまって契約が増えることが期待される。
		乗用車販売店（経営者）	・新型車の売行きも好調にスタートし、3か月はこの状況が継続する。
		自動車備品販売店（経営者）	・これから雪が解けると雪害による修繕や屋根など外壁の小規模修理が増える。冬場のダンプ及び重機の稼働率が通年に比べてかなり上がったため、今後修理が出てくる。
		住関連専門店（経営者）	・建設関係の客が多く、不況も抜けきれず仕事がないという話がよく聞かれるが、関東や名古屋では景気が良いということで、これが2、3か月先は地方に波及する。
		一般レストラン（経営者）	・主婦層の動きをみていると、春に気候が良くなれば出足も良くなる。大きなものはないが、小さな予約が多少入っている。
		観光型旅館（経営者）	・3、4月にむけて、3社のバス会社の企画が入っており、予約の伸びは極めて高い。ただ、5月の連休以降、大きな企画、団体予約がないだけに、地域のマイナスイメージをなるべく早く一掃すべく、地元自治体に働きかけてPRを実施する。
		都市型ホテル（スタッフ）	・全体の景気自体はそれほど良くなるが、公務員が多い当地域では、春先の転入転出に伴う歓送迎会、ちょっとしたレストランの利用など、ホテルとしては良くなっていく。
		住宅販売会社（従業員）	・受注については、ほぼ平年並みで、雪解けにあわせたように管理客が動き出し、契約の動きが出ている。

変わらない	商店街（代表者）	・3、4月は卒業、入学、新社会人関連で盛り上がる時期であるが、最近、客の買物が目的外の傾向が強くなっている。客単価が押さえ気味で大きな伸びは期待できない。
	一般小売店〔茶〕（経営者）	・市町村合併でもめた地域では、給食費の未納の家庭もわずかながら増えている。近所の小売業の奥さんも夜にパートで働いている。貧困ではないがお金がない家庭が増えている。
	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・同業者の話だと、業界の再編成、合併、倒産が続き、良くなる条件はないとのことであり、売上も見込めないとのことであった。
	百貨店（販促担当）	・冬物商戦とそれに連動するバレンタイン商戦が好調に推移したものの、現状は冬物商品が不足しており、春物の先行立ち上げを提案しているが動きが今一つである。
	スーパー（店長）	・依然として単価の下落が続いており、販売点数も伸びていない。安価でないと購入しない客が多い。
	衣料品専門店（経営者）	・現状の客の動きでは、なかなか単価を上げられる手立が見つからない。完全な二極化で、良いもの、高品質のものを高価格で販売すること、または、より安く価格訴求することのどちらかになっている。中途半端が一番良くなく、当店の場合は安さの追求を考えていきたい。
	衣料品専門店（経営者）	・ここ数か月は主にVIP顧客の売上が増加している。富裕層の購買動向はこのまま良い状況で推移する。一般の流動客の購買は上がっていない。
	家電量販店（店長）	・客の動きは少し出てきたが、単身者用の商品の動きがもう一つである。
	乗用車販売店（経営者）	・パソコン、デジカメ、薄型テレビ、DVDレコーダー等への関心が強い一方で、車に関しては、長く大切に乗りたいという意見が多く、内外需要の発生にも乏しさがあり、先行きにあまり大きな伸びはない。
	乗用車販売店（経営者）	・軽自動車の新型モデルが好調で、2～3か月先も勢いが続くが、単価ダウンの傾向は変わらず売上を伸長させることは難しい。
	住関連専門店（経営者）	・売上は、前年比減の日が続いているが、たまに前年を上回る日があり、多少明るさが出てきている。
	その他専門店〔呉服〕（経営者）	・当店の客は年齢層が高く、子供の家計の負担増で孫の入学金などを援助する人が多く、買物を控える。
	その他専門店〔酒〕（営業担当）	・酒は5月からの酒税改定にむけて動きがある。日本酒は在庫調整が大幅に行われる可能性が高い。他の酒類は動きが読めない状況で、3月中に状況が明らかになり、その後対策が打たれるので今とそれほど変わらない。
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・3月も引き続き仕入価格が値上げとなり、販売数量の落ち込みから末端価格になかなか転嫁できない状況が続く。冬場の燃料需要が無くなってくることとあいまって、厳しい状況が続く。
	都市型ホテル（スタッフ）	・回復にむけた動きは出てきているが、勝ち組と負け組、業界による格差が今まで以上にはっきりと区別されてきている。年度末の3月となり、景気調査等では景気は回復基調にあると言われているが、まだまだ実感することは少なく、地道に時間をかけて取り組む必要がある。
タクシー運転手	・時節柄、就職活動中の乗客があるが、全く就職口が決まらず苦労している話を聞く。新卒者の就職先がまだ決まらない状況では、ここ2、3か月で景気が好転することはない。	
テーマパーク（職員）	・雪解けが早そうなので、動きも良くなる。ただ、館内での消費は未だ良くならない。入場者数は何とか前年並みにはなっているが、客単価は前年を下回っている。	
遊園地（経営者）	・昨年の春と比較して気温が高く、客の動きが良くなることが期待されるが、楽観はできない。	
住宅販売会社（従業員）	・耐震強度偽装問題の影響を受け、客には急いで購入を決めなくてもいいという心理が見受けられ、販売量は相変わらず伸び悩む。	
やや悪くなる	商店街（代表者）	・前年度と比較して予約数が少なく、依然企業が動かない。中央と比べて東北は企業の設備投資が少ないため、かなり静かな状況が続く。
	百貨店（売場主任）	・春物需要が2月に前倒しになっており、その分の影響が今後出てくる。
	スーパー（店長）	・地元企業の業績不振での廃業、倒産や、業務縮小が増えてきている。この地域においての景気回復はまだまだ程遠い。

		スーパー（企画担当）	・市内商圏の小売店については、店舗数の増加により過剰な状態である。新規出店は今後も続くため、既存店ベースの回復は望めない。
		衣料品専門店（店長）	・フレッシュマンや衣替えの出遅れがこのまま続くものと懸念しており、楽観視は全くしていない。
		その他専門店〔パソコン〕（経営者）	・確かに良く伸びてきている企業が目立っているが、それ以上に苦しんでいる中小企業、販売店が多い。平均して地方はかなり回復度合いが悪い。
		観光型ホテル（経営者）	・3、4月の予約は現在あまり伸びず、前年を下回っている。歓送迎会も新規の客は少ない。ホテルの選定は、施設の充実度や老舗だからといったことは関係なく料金で決定されている。
		観光型旅館（経営者）	・市町村合併で選挙が始まり、地元の動きがなくなる。また、大雪の影響で余分な出費が冬に発生した分、レジャーに回るお金が減っている。
	悪くなる	旅行代理店（従業員）	・4月以降、一般家計の負担がかなり増えるところが多い。家計の負担が増えれば旅行、余暇にける費用が減る。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	繊維工業（総務担当）	・厳しい状況は変わらず、産地全体もばらつきはみられるものの、秋冬物の売上の好調さは春夏物につながる。企画段階の秋冬物の展望も昨年よりも良い状況である。
		建設業（経営者）	・季節的な要因も若干あるが、新規の工事の受注や問い合わせが出てきている。特にリフォーム工事よりも新築の問い合わせが増えている。
		建設業（企画担当）	・製造業の設備投資計画に基づく、見積依頼等が増加している。以前は、計画段階で止まっているケースが多かったが、実現にむけた競争見積等が多くなってきた。
		輸送業（従業員）	・荷主の情報によると、年明けから工業品の受注量が多くなってきている。
		広告業協会（役員）	・広告関係も、学習塾、大学、老人医療施設、ペットショップなどが大手のクライアントとなり様変わりしている。
		広告代理店（従業員）	・中央資本の大手を中心に、広報活動の拡大が、若干みられる。価格下落は続くが、物件数でカバーしながら、受注額の増大を図っていく。
		広告代理店（営業担当）	・4月からの新年度で、同じ得意先から、前年同期に実績の無かった案件がいくつか発生している。
	変わらない	食料品製造業（経営者）	・4月から15～20%くらいの商品の値上げを行う予定であり、その影響がどのようにでるか不透明である。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・自動車部品は引き続き好調な状態が持続するが、このところの為替の円高が業績に悪影響を及ぼすことが若干懸念される。
		通信業（営業担当）	・入札における競合先との競争はまだ続くと思われ、依然環境は厳しい状況である。
		公認会計士	・好調である電子部品製造の1月の売上が、前年比175%と量的には伸びた。しかし、1月から利益率の高い部品の受注価格が引下げられ、総利益は123%と売上の伸びを大きく下回った。今後も受注価格の引下げ要請がある。一方、サービス関連の都市型ホテルでは、挙式、宴会の減少傾向が続き、現時点では景気の好転は考えにくい。
		コピーサービス業（経営者）	・2、3か月先は新年度が始まり、通常は慌ただしくなるが、今年は大きな動きの情報はなく、変化がなさそうである。コピーサービス、文具等を求める来客も例年より減少している。2、3か月先は良くなることはなく、変わらない。
	その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・5月からの酒類の税制改正に伴い、清酒は減税となる。4月末は流通各社大幅な在庫調整が予測されるが大きな混乱はない。	
	その他企業〔企画業〕（経営者）	・住宅取得が低調気味なので住宅関連消費も比例して低調である。ただし、リフォーム需要に少し明るさが見える。	
やや悪くなる	食料品製造業（経営者）	・米国の牛肉輸入禁止が長引くことから、相場が上がる傾向にある。	
	食料品製造業（経理担当）	・包装資材（ダンボールやプラスチック袋）の値上げが実施され、収益面を圧迫する。受注動向は横ばいとなる。	
	電気機械器具製造業（経営者）	・年度末にかけ、追い込みの受注が急増している。その反動で4、5月の受注が減少する傾向にある。景気が上向きになっているのは、客先の動向で判断できるが、具体的動きがまだみえていない。	
	電気機械器具製造業（企画担当）	・主力製品である半導体メモリの価格が低下する。	

		輸送業（経営者）	・貨物取扱業のため軽油の高騰がもろに収益を圧迫しており、内部だけの努力で解決する範囲を超えている。
		新聞販売店〔広告〕 （店主）	・大手水産会社の倒産がかなりの失業者を出しており、関連の産業、会社などにも影響が大きく徐々に悪い傾向が出てくる。
	悪くなる	農林水産業（従業者）	・昨年の収入が悪かったため、生産資材の肥料や薬剤を借入れて購入する農家が多くなっている。
雇用 関連	良くなる	人材派遣会社（社員）	・製造業のうち、半導体関係で企業の復活の兆しがある。2、3か月先に定期的注文を見込んでいる。
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・年度替わりの時期にきているため各企業も新卒者の受け入れに忙しいが、同時に紹介予定派遣のニーズも広まりつつあるため中途入社枠を確実にねらえる傾向にある。
		人材派遣会社（社員）	・現在、大学新卒採用の企業説明会の参加率が昨年よりも悪化している。各企業の採用意欲が高まり、競争が激化している現れである。各企業は追加の説明会を企画したり、新卒で取りきれない分の中途採用の検討を始めている。
		求人情報誌製作会社 （編集者）	・企業の新卒採用への取り組みが例年以上に早く、採用意欲も高い。非正規社員の採用意欲も高くなっている。
	変わらない	職業安定所（職員）	・求人はパートが減少し常用が増加する傾向が続いているが、これは、2007年問題も要因の1つと考えられる。求職はこの求人の傾向を受けて女性の在職者、自己都合離職者が増加し、年齢別では、25～34才までの若年層で増加している。したがって、今後当面、有効求人倍率の大きな上昇は考えられない。
やや悪くなる	職業安定所（職員）	・3月末をもって人員整理を予定している事業所が数社あり、求人倍率の低下が懸念される。	
	職業安定所（職員）	・大量離職者の発生により雇用環境の悪化が懸念される。	
	悪くなる		